

日本学校教育学会実践研究委員会 研修会（共創研 研修会）開催報告書

実践研究委員会委員 守内映子(日本映画大学)

秋たけなわの2023年11月25日土曜日、古都大和路にある奈良教育大学附属中学校において、共創型対話学習研究所（以下、共創研）の第12回研修会が対面で開催された。この研修会は、日本学校教育学会実践研究委員会（以下、本委員会）との共催であり、本委員会の研修会を兼ねている。本委員会からは、中山委員長、湯澤幹事、佑岡委員、南委員、そして守内が参加した。

この研修会は、本委員会の多田孝志顧問が主宰している。共創型対話を軸とした確かな実践の交流、理論と実践の往還という多田顧問の教育観に賛同し、学び合いたいという教員や学生が集う会である。コロナ禍での中断期間はあったものの、昨年より対面での実施が復活し、今回で12回を数えることとなった。機関紙『未来を拓く教育実践研究』は第7号まで刊行されている。

当日は、全国から幼・小・中・高・大学の教員と学部生や院生、そして一般社団法人代表理事等が参加し総勢50名(定員)となった。実行委員長でもある、国際交流委員会小嶋祐司郎委員の司会のもと12時半から17時まで、質の高い研究発表と専門家によるコメントや会場との議論がなされ、充実した時間となった。会場となった奈良教育大学附属中学校は、会議室の北窓から京都に向かう奈良坂、西窓から大阪方面の生駒山、南側から東大寺を臨む佐保田の丘にあり、校地内で古墳が見られるという歴史を感じる場所であった。

今回のテーマは、「今、学校教育を問う2～社会の変化と学校～」であり、プログラムは次の通りであった。

- ① 「社会教育の立場から学校教育の現状を問う～今、学校教育が忘れていていること～」
 - ・発表者：竹澤賢樹(一般社団法人ひとまち永平寺代表理事)
 - ・コメンテーター：増淵幸男(上智大学名誉教授)
- ② 「『Chat GPTの衝撃』と国語科～『感性』と『判断』を手がかりに～」
 - ・発表者：植西浩一(元広島女学院大学教授)
 - ・コメンテーター：久保田一志(栃木県立足利高等学校教諭)
- ③ 「ESDの視点で平和教育を問い直す～新たな戦前といわれる社会にあって～」
 - ・発表者：吉田寛(奈良教育大学附属中学校教諭)
 - ・コメンテーター：諏訪哲郎(学習院大学名誉教授 元日本環境教育学会会長)

④ 研究協議

⑤ 多田所長講演「対話における浮遊型思索の意義」

上記の研究発表についての概要を以下にまとめる。

①では、ソーシャルワークの幅広い範囲で活動されてきた様々な子ども支援の実践報告があった。中でも、福井の定時制高校内で取り組まれた「校内居場所カフェ」の実践報告では、家庭や学校以外の「Third Place」＝「第三の場所」に関する説明が行われた。発表者である竹澤氏の今の学校教育への3つの問い「子どもたちの“実態”を見ようとしていますか」「子どもたちの“将来”を見ようとしていますか」「子どもたちの“声”を聴こうとしていますか」が印象的であった。

②では、昨今注目されている「ChatGPT」に関する特集記事から、大規模言語モデルがどのように捉えられているのかなどの情報提供がなされ、その衝撃が国語科の学びの在り方にどのような影響があるのかについての論考が提示された。発表者である植西氏は、自身の過去三十年の実践を踏まえながら、「感性」「記号接地」「身体性」を大切に「書くこと」が、「体験」を「経験」に近付けると論じた。生徒の実際のノートの紹介を通して氏の実践と論考の確かさを共有することができた。

③では、現在の世界が決して「平和」とは言えない混沌とした状況が続く中、社会科教育の立場から、平和教育を実践していく上での困難さやその問題点が挙げられ、「平和」の概念の再検討がなされた。そして、ESDの視点を取り入れた平和教育として、樺太(現南サハリン)の残留邦人を取材した「境界とアイデンティティ」というテーマの授業提案がなされた。「持続可能な社会づくりの構成概念」を問い直し捉え直した視点を生かした授業でもあり、発表者である吉田氏の課題意識と、何よりも平和に込めた熱い思いがこもった内容であった。今後の授業展開、実践発表に期待したい。

⑤では、先ず当日の発表を受けて、実践研究の高度化を実感したとの感想が述べられた。そして、多田所長自身の研究から、「対話」についてもう一度問い直してみたところ、授業における「浮遊型思索」の活用が改めて有効であるという気づきがあったとの講和が展開された。特に「人間の本質は遊びである」ことへの言及からは刺激を頂いた。遊びを活用した教育実践例として紹介された松江市雑賀幼稚園の山口修司園長も参加されており、氏からも話を聞ける場面もあった。

プログラムの最後に参加者全員で記念撮影を行った。当日はオンラインでの参加者のためにハイブリッドでの開催となったが、機材管理と機器操作に湯澤幹事が協力した。

(写真提供は湯澤幹事より)

